

むさしの・ガーデン紀行 令和5年度 登録計画実施報告書

むさしの・ガーデン紀行連絡協議会 令和6年4月



むさしの・ガーデン紀行
MUSASHINO GARDEN JOURNEY

■具体的な事業の実施状況

1) 森の地図スタンプラリーの実施

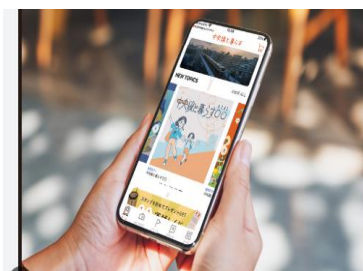
第20回 ー秋の「むさしの」満喫編ー 令和5(2023)年10月1日(日)～12月3日(日)

むさしの・ガーデン紀行の基幹活動である「森の地図スタンプラリー」を秋に行った。第1回の開催から基本的に春・秋の年2回開催で行っていたイベントであったが本年度から年1回開催に移行した。これは、新型コロナウイルスの影響で一時減少していた参加者が元に戻った以上に大幅に伸び、運営の準備期間や資金の面で年2回開催が困難になったためである。今回の第20回では、交通事業者(JR東日本等、京王電鉄)との連携が新たに始まり、特に広報面で大きな進展がみられた。スタンプラリーの台紙の印刷、設置枚数が大幅(13,000枚→25,000枚)に増え、参加者の増加に寄与した。また、運営面では、地域の大学との連携も実現し、オープンカフェ&パネル展示などのイベント運営時にボランティア学生の応援が得られた。

	開催日数	方式	参加者数	景品応募者数	施設訪問数
2022年 (18回)	51日間	デジタルスタンプ	1,057名(登録者)	522名(参加賞)	5,951(実数)
		リアルスタンプ	3,802名(推定)	313名(参加賞)	3,586(推定)
		合計	4,859名(推定)	835名(実数)	9,537(推定)
2022年 (19回)	65日間	デジタルスタンプ	1,112名(登録者)	430名(参加賞)	4,623(実数)
		リアルスタンプ	3,928名(推定)	511名(参加賞)	5,493(推定)
		合計	5,040名(推定)	941名(実数)	10,116(推定)
2023年 (20回)	65日間	デジタルスタンプ	ー(登録者不明)	808名(各賞合計)	7,859(推定)
		リアルスタンプ	8,147名(推定)	689名(参加・達成計)	9,338(推定)
		合計	8,147名(リアル推定)	1,497名(実数)	17,179(推定)



●デジタルスタンプラリーは、JR中央線コミュニティデザインとの連携で「中央線と暮らす」のアプリ上で行った。これにより、JR東日本とも連動した広報が実現。



●デジタルでは、スマートフォンのGPS機能を使い、ラリーポイント圏内でスタンプを取得できる。



●スタンプラリー開催期間中のオープンカフェ&パネル展示会場では、日時限定のスペシャルスタンプ(リアル)を設置した。

2) モデルコースの策定

今年度は、森の地図スタンプラリーの秋開催に合わせ、開催エリアの中心部をめぐるコースを策定した。ラリーポイントになっている都立多磨霊園が開園 100 周年。そして都立公園自体が開園 150 周年を迎えたことに合わせ、関連するポイントを重点的にコースに組み込んだ。コースの設定にあたっては、交通事業者との連携を踏まえ、JR 中央線と京王線の駅を出発点・終点として設定した。

●テーマ「秋のむさしの」満喫さんぽ

多くの著名人が眠る多磨霊園。標高約 80 メートルの超低山の浅間山。野川沿いに連続する武蔵野公園と野川公園。調布飛行場が隣接する武蔵野の森公園などを巡るコース設定。木々が徐々に色づく季節に地域を気ままに散策。



3) モニターガイドツアーの実施

前述のモデルコースを実踏するモニターツアーを行った。都立多磨霊園では府中市のボランティアガイドと連携し、江戸川乱歩、長谷川町子、岡本太郎など著名人のお墓めぐりを行った。また、都立野川公園と都立浅間山公園では、パークレンジャーが自然ガイドで参加した。これまで同様、ツアーの安全性等を重視し定員を 10 名とした。昨年度の発展形として、今年度は、昼食（武蔵野公園・くじら山近辺でピクニックランチ）を組み込み、ほぼ一日の行程とした。ツアー料金を 5,000 円として募集したが満席となった。ツアー後のアンケートでは、今回も好反応が得られた。結果をくわしく分析することで、今後の継続的なモデルコース策定やガイドツアー実施の参考としていきたい。

4) オープンカフェ&パネル展示の実施

継続事業として、実施場所と実施時期を分散するイベントを実施した。密にならない屋外でパネル展示を行い、むさしの・ガーデン紀行の取り組みと地域の魅力の紹介とアンケート（あったらいいな！できたらいいな！プロジェクト）を行った。また、パネル展に合わせて、ランチや休憩に利用できるカフェ空間を創出した。事務局、地元の観光協会、構成庭園、キッチンカーや地域店舗との協働で行われ、今後の地域に根差した取り組みに資するものとなった。



●神代植物公園会場の参加者



●武蔵国分寺公園会場の参加者



■その他の事業

〈意識啓発活動〉

むさしの・ガーデン紀行が国土交通省の登録計画となってから3年が経過したが、一般的な認知度はまだまだ低い。また、協議会の構成員の中でも取組みへの理解に温度差がある。これらを解決するために2023年3月に策定した未来ビジョンをもとに啓蒙を図って行くこととするが、その端緒として一般を対象とした市民講座と協議会参加者を地域のステークホルダーまで広げた拡大版協議会を行った。

1) 市民講座

市民講座を「むさしの」まち歩き楽しみのタイトルで行った。20名程度の参加を想定したが、応募は13名であった。二部構成とし、前半の一部で「森の地図スタンプラリー」のスタッフの情報提供、二部は参加者のワークショップで新しい回遊テーマやコースについてアイデアを出しあった。地域の大学からの参加もあり、貴重な若者の声が聞くことができ、次回以降の企画の参考になる素材が得られた。



●募集チラシ



●ワークショップの様子



2) 拡大版協議会

拡大版協議会では、国土交通省の担当部署をはじめ、都立公園を管理する東京都建設局公園緑地部、東京観光財団の担当者などにもご参加いただいた。また、地元のステークホルダーとなる交通事業者や金融機関、生命保険会社と多彩なメンバーがそろい、ワークショップでは、地元の課題や今後の取組みなどについて話し合った。



●拡大版協議会の様子

拡大版協議会の概要			
■プログラム（前半）			
	時間	プログラム	内容
第1部 話題提供	13:30~	開会挨拶・	開会挨拶
	13:33	趣旨説明	拡大版協議会開催の趣旨説明
	13:33~	話題提供①	むさしの・ガーデン紀行の経緯について
	13:43	話題提供②	（一社）武蔵野コッツウォルズ 代表理事 鈴木 俊彦
	13:43~	話題提供③	ガーデンツーリズム登録制度と「むさしの・ガーデン紀行」に期待するもの
	13:53	話題提供④	国土交通省 都市局 公園緑地・景観課 企画専門官 佐々木 貴弘
第2部 ディスカッション	13:53~	話題提供⑤	都立公園のパークマネジメントマスタープラン
	14:03	話題提供⑥	東京都 建設局 公園緑地部 計画課長 坂下 智宏
第3部 ディスカッション	14:03~	話題提供⑦	むさしの・ガーデン紀行が地域にもたらす恩恵と未来【コーディネーター】
	14:03~	話題提供⑧	特定非営利活動法人Green Connection TOKYO 代表理事 佐藤 留美【キリスト】
第4部 ディスカッション	14:03~	話題提供⑨	（一社）小金井市観光まちおこし協会 前事務局長 千葉 幸二
	14:03~	話題提供⑩	国分寺市教育委員会 ふるさと文化財課 文化財保護係長(学芸員) 増井 有真
第5部 ディスカッション	14:03~	話題提供⑪	亜細亜大学 経営学部 ホスピタリティ・マネジメント学科 准教授 久保田 美穂子
	14:03~	話題提供⑫	（株）JR中央線コミュニティデザイン 新領域創造本部 地域活性化部 チーフ 宮城 信太郎
第6部 ディスカッション	14:03~	話題提供⑬	（一社）武蔵野コッツウォルズ 代表理事 鈴木 俊彦
	14:03~	話題提供⑭	（一社）武蔵野コッツウォルズ 代表理事 鈴木 俊彦



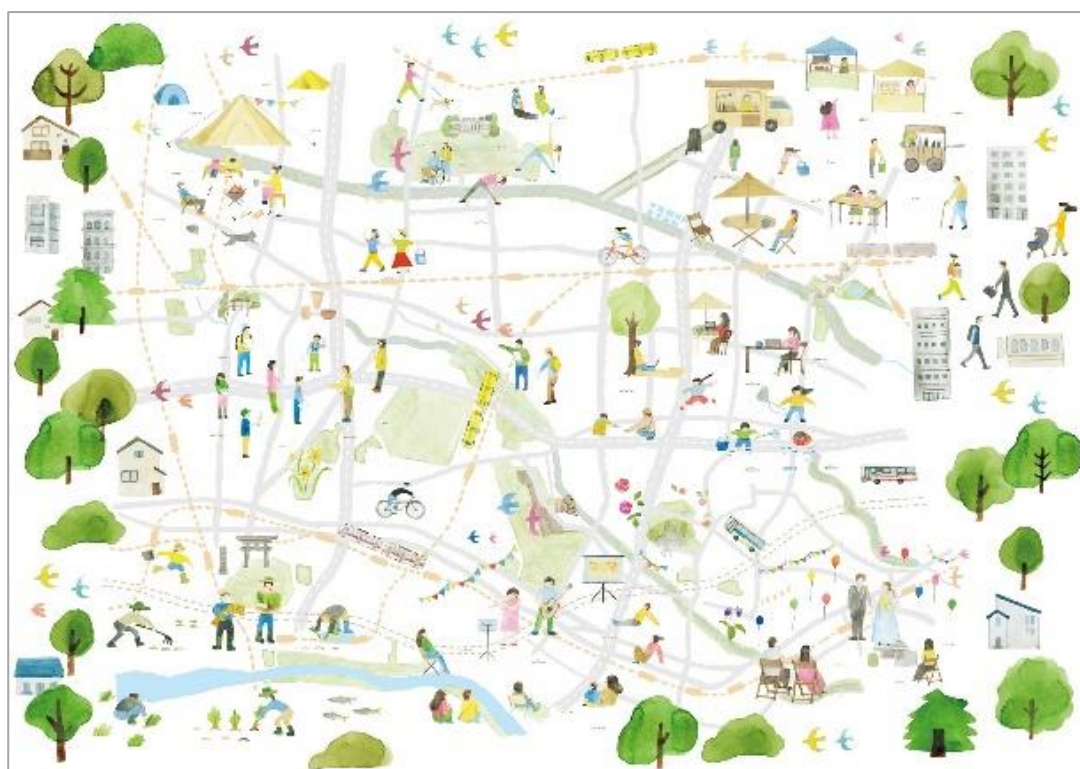
3) パンフレットの作成

これまでむさしの・ガーデン紀行の取組を紹介する上で、パンフレットなどの説明資料がなかった。そこで意識啓発活動の一環として、A5判8頁のパンフレットを作成した。今後、さまざまな連携を進めて行くときに名刺代わりになるもので、ガーデンツーリズム登録制度の啓蒙も合わせて行っていきたい。



●むさしの・ガーデン紀行の未来ビジョン

みんながつながる「ひとつの大きなガーデン」 ～東京のまんなかにある水と緑と歴史の回廊～



●未来ビジョンのイラスト

■今後の展開と課題

昨年3月に策定した未来ビジョン、みんながつながる「ひとつの大きなガーデン」を念頭に、地域のステークホルダーを巻き込みながら取組みを推し進める。当面の主な課題は下記である。

- ・ 持続的、安定的な事業運営のための組織づくり
- ・ 協議会内の情報の共有をベースにした発信力の強化と地域ブランディングの促進
- ・ 交通事業者など地域の多様な主体（ステークホルダー）との連携強化
- ・ 収益基盤の確立（協賛企業の獲得、地域を象徴するイベントの創出、オリジナルグッズ（お土産品）の開発・販売、共通入園券や有料の公式ガイドブックの検討）